

地震

それは…

明日かもしれない。



土砂に埋まった建物と救助作業の様子(岩手・宮城内陸地震にて)

日本は、世界有数の地震大国といわれています。1995年の阪神・淡路大震災、2004年の新潟県中越地震、まだ記憶に新しい昨年6月の岩手・宮城内陸地震。私たちは、そのたびに地震の脅威と恐ろしさを目の当たりにしてきました。

そして、私たちの住んでいる日光市でも、今からちょうど60年前、マグニチュード6.4を記録した直下型地震「今市地震」が起きています。

何の前触れもなく発生する地震。そのとき、あなたは大切な家族や家を守れますか？

六十年前の大災害

今市地震

師走の町を襲った激震

昭和24年12月26日午前8時過ぎ。この日は、旧今市町の商店街で3日間にわたり行われていた商工祭の最終日。大勢の人が祭の準備に取り掛かり、朝からにぎやかでした。

そんな今市の町を突然襲った激震。激しい揺れの数分後に、さらに大きな二度目の地震が発生し、平和な町並みは一瞬にして砂埃の舞う瓦礫の山と化したのです。

地震の詳細と規模

- 発生日時とマグニチュード
①12月26日午前8時17分
マグニチュード 6.2
②同日午前8時24分
マグニチュード 6.4
震度：震度6相当

震源地：鶏鳴山付近（左図参照）

被害地の範囲

今市地震の主な被害地は、震源地の鶏鳴山付近から半径約20kmと、比較的狭い範囲でした。地震の大きさのわりに、家屋倒壊などの被害が広範囲に及ばずに済んだのは、震源が深く地盤が強固だったためと考えられています。しかし、山間部では翌日も続いた強い余震

震源地周辺の地図



のせいもあり、山崩れや地すべりが多発しました。
（※1）マグニチュード：地震が発するエネルギーの大きさを表す数値。
（※2）震度：地震による揺れの程度を表す数値。

氷点下8度の夜

大地震が発生した日の夜の気温は、氷点下8度。住民たちは、瓦礫の中の畳や戸板、布団などを庭や道路に敷き、凍えるような寒さの中で過ごすことを余儀なくされました。かろうじて倒壊から免れた家でも、屋内での火気の使用は禁止だったため、暖をとることはできませんでした。その後も続いた

余震と地鳴りにおびえながら、住民たちは眠れぬ夜を過ごしたのです。

地震が残した爪痕

建築物の被害

二度にわたる大きな揺れのため、震源地付近の家屋の多くは全壊または半壊という状況でした。また、当時は火災に強い大谷石を使用した倉庫や蔵が多く建てられていましたが、基礎工事などが不完全だったため、ほぼ全壊でした。

今市地震での被害総額は約35億円といわれており、この大半が建築物の被害であつたとされています。

道路・鉄道の被害

山久保から、小来川や小代を経て今市市街地に通じる環状道路と例幣使街道では、亀裂や崩落などの被害が多発しました。

国鉄（現JR）今市駅、大沢駅、日光駅では、地震の影響で地割れが生じたり、待合室などの天井や壁が崩れたりしました。また、ホームのコンクリートが砕けて線路上に覆いかぶさり、

地震当日は文挾駅、日光駅間の運行が不能となりました。東武線も、下今市の変電所が故障したため、同じく全線不通でした。

失われた尊い命

今市地震の被害者は、死者・行方不明者が10名、負傷者が103名でした。死者・行方不明者のうち3名は倒壊した家屋の下敷きになり、7名は土砂崩れに巻き込まれました。

行川流域の被害は甚大で、山崩れによってせき止められた川があふれ泥の海と化しました。土砂崩れに巻き込まれた7名のうち4名は、行川付近で被害に遭いました。

当時、行川流域に住んでいた人の話によると、「地震が起きてドドーンと音がしたので外に飛び出そうと準備したとたん、二度目の強震でものすごい音を立てて山が崩れた。みるみるうちに土砂が家を飲み込み、一瞬のうちに全てを泥海の中に沈めてしまった」という、悲惨な状況でした。

特集 地震



無残に崩れた石垣と建物の外壁。



土砂崩れに巻き込まれた被害者救出の様子（平ヶ崎）。すべて手作業だったため、救出は困難を極めた。



障子やふすまで作った避難小屋があちこちに並んだ。



傾いた瀧尾神社の本殿と崩れた石垣。



大きな亀裂が入った道路。



倒壊したホームが線路を覆った国鉄（現JR）今市駅。



2つに裂け、山肌がむき出しになった山間部の大地。

地震の恐怖とともに知った、人の温かさ

当時私は9歳で、小倉町4丁目に住んでいました。地震の瞬間、下から持ち上げられるような強い揺れを感じました。立って歩けず、家の中を這って移動し、父親にしがみつきました。揺れが収まり外へ出ると、塀は崩れ、造り酒屋の大きな煙突は半分に折れていました。全てが見たことのない情景で、本当に怖かったです。

でも、恐怖とともに人の温かさやつながりを知ることできました。近所の大人がお年寄りや子どもを守ってくれて、警察や消防の方もすぐに見回りに来てくれました。もし、今また大きな地震が起きたとしても、1人暮らしの方やお年寄りが不安を抱え込まずに済むように、近所同士がいつでも助け合える関係でいることが大切だと思います。



たかはしあけみ
高橋暁美さん（今市）

「あの日…」の記憶

今市地震体験者インタビュー

「かまどの火を消して！」と、祖母が叫んだ

当時は朝日町に住んでおり、家は八百屋を営んでいました。小学5年生だった私は、朝食を食べ、学校へ行く時間まで弟と相撲をとって遊んでいました。そのときに1度目の地震に襲われたのです。祖母が「かまどの火を消して！」と叫んだので、すぐに水をかけました。そして2度目の地震は、立ってられないほど大きな揺れで、私はひっくり返ってしまいました。店に並んでいたリンゴやミカンが外に転がり、道沿いに止まっていたトラックが、道路から跳ね上がるほど大きく揺れていたのを覚えています。

それくらい大きな地震でしたが、火災は一件も出ませんでした。戦後間もないせいもあり、祖母を含め、皆、防火に対する意識はとても高かったですね。

かみやまたかゆき
神山隆之さん（平ヶ崎）



専門家の方に聞きました。
教えて！
耐震診断

耐震アドバイザー
なけうちしろう
竹内俊朗さん

Q:耐震診断では、どんなことを行うのですか。

A:外壁や基礎に亀裂が入っていないか、屋根裏や床下にどんな材料が使われているか、壁に筋交い(補強のための部材)が入っているか、土台が腐っていないか、金物が規定どおり固定されているかなどをチェックします。

Q:所要時間はどれくらいですか。

A:2〜3時間くらいです。

Q:費用はどのくらいかかりますか。

A:費用は、住宅の面積により決められており、12〜17万円です。

Q:耐震診断の必要性についてお聞かせください。

A:万が一、地震で家が倒壊した場合、逃げ出すことが困難になり、救助にも時間がかかってしまいます。また、被害が自分の家だけで済むとは限りません。崩れた屋根や壁が隣の家を傷つけたり、瓦礫が道路をふさいでしまったりする恐れもあります。

家の倒壊を防ぐことは、自分と家族の命を守ること、そして地域の安全を守ることにつながるのです。

Q:最後に一言お願いします。

A:最近は特に地震が多いので、自分の家は大丈夫と過信せずに耐震診断を受けてほしいと思います。そして、改修が必要な場合は、早急に補強工事をしてください。少しでも不安がある方は、ぜひ市の窓口へご相談ください。

大切なのは日ごろの準備

そのときに備える

耐震診断を受けましょう

平成7年の阪神・淡路大震災で亡くなった方の約8割は、建物の倒壊による圧死や窒息死でした。特に、昭和56年の建築基準法改正以前に建てられた木造住宅に被害が集中しました。

不安を感じている方は、ぜひ耐震診断を受けてください。耐震診断を受けるにあたり、市では次のような事業を実施しています。
耐震アドバイザー派遣事業
建築物の耐震診断や耐震改修が必要かどうかを判断

するなど、専門知識を持った耐震アドバイザーの派遣を行っています。

派遣に要する費用は市が負担します。また、個人に限らず、自治会やグループからの派遣依頼も受け付けます。

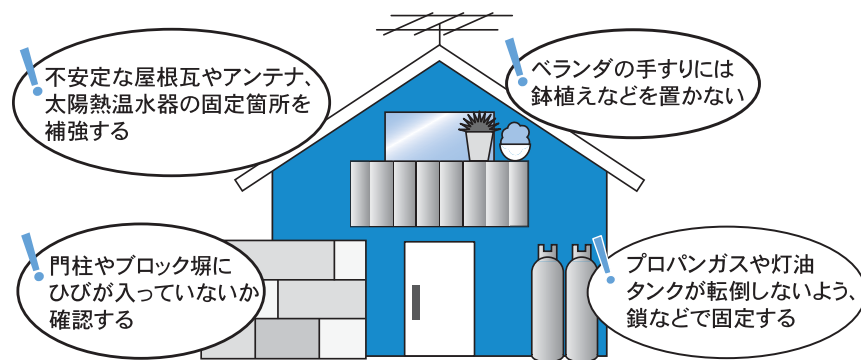
※アドバイザーによる調査の結果、実際に耐震診断が必要になった場合は、別に費用がかかります。
木造住宅耐震化促進事業
地震災害から皆さんの安全を確保するため、昭和56



地震により半壊した家屋。

家の外は 大丈夫？

家の中と同様に、家の外の安全対策も大切です。普段から、危険な箇所はないか、倒れやすいものはないかなどの点検をしましょう。家の外の主なチェックポイントは左の図のとおりです。



家族で防災会議



大きな地震でも慌てず行動できるように、日ごろから家族で話し合うことが大切です。

ポイント① 非常持ち出し品と備蓄品を準備する

非常持ち出し品：すぐに持ち出せるよう、リュックなどに入れ、持ち出しやすい場所に置いておきましょう

(左図参照)。

備蓄品：救援体制が整うまでに、約3日間かかるといわれています。その間を自力で乗り切れるよう準備しておきましょう(左図参照)。

ポイント② 地震が起きたときの役割を決める

○火の始末をする人
○出口を確保する人
○非常持ち出し品を確認する人
○隣近所へ連絡する人など

ポイント③ 避難時、離れ離れになったときの連絡方法や集合場所を決める

大きな地震が発生した際、

災害用伝言ダイヤル使用方法



被災地への電話が集中しつなかりにくくなる場合があります。そのような場合には、災害用伝言ダイヤル(NTTコミュニケーションズ提供)をご利用ください。災害用伝言ダイヤルは、音声の録音・再生をすることができ、安否の確認や緊急連絡が可能です。

家の中の安全対策



地震直後の家屋内部。

8月11日に発生した駿河湾を震源とした地震の際、静岡県焼津市では、家具や家電の耐震補強をしていた家庭とそうでない家庭では、家の中の被害の差が歴然であつたということでした。突つ張り棒や固定ベルトなどを使用して家具を補強していた家庭では、震度6弱という大きな地震だつたにも関わらず、食器も割れず

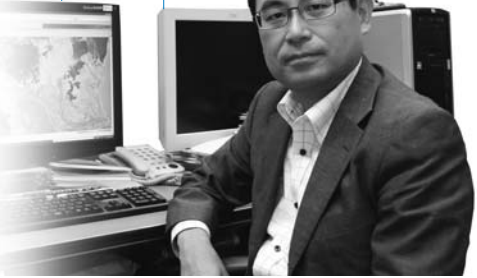
に済んだそうです。被害を最小限に抑えるために、左記の「家の中の注意点」を参考に、各家庭で地震に備えた安全対策をとってください。

家の中の注意点

- ①タンスや本棚、食器棚は突っ張り棒やL字金具で壁や天井に固定する。
- ②テレビは低い位置に固定し、上に物を置かない。
- ③食器棚や窓のガラスには、飛散防止フィルムを貼る。
- ④吊り下げ式の照明は、鎖と金具を使って数か所を固定し、蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止める。
- ⑤ベッドや布団は、家具が倒れてくる危険のないスペースに配置する。
- ⑥日ごろから安全な避難経路を確保し、荷物は置かない。
- ⑦火災が起きたときに備えて、消火器を用意しておく。
- ⑧家の中に、家具などが倒れてくる危険のない安全な空間をつくる。

そのとき！ 何が起ころる？ 何をすべき？

独立行政法人防災科学技術研究所
理学博士 藤原広行さん



防災科学技術研究所（茨城県つくば市）で、地震災害について研究している藤原さんに、地震の際に起こりうる危険やとるべき行動、今後起きる地震の可能性などについて伺いました。

強い揺れに襲われたとき、思い通りに動くことは非常に困難です。その状況下で、何よりも優先して行うべきことはありますか？

「これは、状況や環境によりさまざまです。

家の中でも、どこにいるかによって、とるべき行動は異なります。例えば、割れ物が多い台所では、テーブルの下に隠れるよりも、

落下物や家具が少ない部屋に逃げた方が安全な場合もあります。『寝室で寝ているときに地震が起きたらどうすべきか』、『居間にいるときならどうすれば安全

か』など、日ごろから分けて考えておくことで、いざというときに優先して行うべきことを整理できます」

地震の際、すぐに外に出るのは危険といいますが、家の近くに山がある場合、土砂崩れの恐れもあります。揺れが収まるまで待つてもよいのですか？

「揺れの程度にもよりますが、必ずしも待つていた方がよいとはいえません。一般的に正しいといわれている行動をとれば常に安全、というわけではないのです。土砂災害警戒区域に指定さ

れているなど、事前に危険だということが分かっているならば、外に出て逃げた方がよい場合もあります」

日光市は、平地と山間部の両方を有しています。それぞれで起こりうる危険と備えるべきことは何ですか？

「平地での一番の危険は建物の倒壊で、建築物の多い場所では、特に注意が必要です。日ごろから、家の耐震補強や家具の固定などの備えをしてください。

山間部でも、平地と同様に建物倒壊の危険はもちろんあります。しかし、それ以外に、土砂崩れなど二次災害の恐れもあります。それにより、道路などが寸断

いくつかの内陸地震も、『起きるとは思っていなかった』という場所で起きています」

栃木県北部（那須野原の西側）には、活断層である「関谷断層」があります（文部科学省公表）。今後、関谷断層が原因となつて地震が起ころる可能性もあるのでしょうか？

「高い確率ではありませんが、関谷断層に関連する地震の被害は、今も想定されています。江戸時代に起きたマグニチュード7相当の地震が、関谷断層での最新の活動と記録されています。関谷断層全体では、マグニチュー

ー

ド7.5程度の大地震はすぐには起こらないのではないかと推測されていますが、今市地震と同程度（マグニチュード6.4相当）の地震は、いつ起きてもおかしくありません」

藤原さんにお話を伺って、地震がいつ起きてもおかしくないこと、そして、状況に応じて考えて行動することが、危険を回避することにつながると分かりました。潜んでいる危険は、家庭によって違います。「何がなんでも机の下に隠れる」のではなく、「この場合はどう行動すれば安全か」と考えることこそが、本当の地震対策になるのです。

災害時避難場所一覧

地震発生時、建物の倒壊などにより自宅で生活できなくなる場合に備え、市では、臨時的に生活をするのできる避難所を指定しています。最寄りの避難所を確認してください。

今市地域														
今市小学校	今市第二小学校	今市第三小学校	南原小学校	落合東小学校	落合西小学校	大桑小学校	轟小学校	小百小学校	大沢小学校	大室小学校	猪倉小学校	小林小学校	今市中学校	東原中学校
落合中学校	豊岡中学校	大沢中学校	小林中学校	今市保健福祉センター	今市文化会館	南原コミュニティセンター	丸山公園（グリーンスポーツハウス）	今市運動公園体育センター	今市高等学校	今市工業高等学校	落合運動公園	二宮神社（神社会館）	旧日光地区森林組合	高畑公民館
中宮祠小中学校	奥日光「コミュニティセンター」	とちぎ日光材細尾モデルセンター	清滝小学校	清滝保育園	女性サポートセンター	安良沢小学校	藤原地域							
足尾地域								高徳保育園	足尾市民センター	足尾中学校	足尾小学校	皇海荘しらかば苑	元足尾高等学校独身寮	赤倉集会所
速下集会所	掛水集会所	唐風呂集会所	原集会所	小佐越地区多目的集会所	城の内自治公民館	柄倉多目的集会所	高徳生活改善センター	大原市営住宅集会所	自由ヶ丘市営住宅集会所	富士ヶ丘自治公民館	自由ヶ丘公民館	下原保育園	下原小学校	下原児童館
藤原地区集会所	大原地区集会所	鬼怒川小学校	鬼怒川児童館	藤原保健センター	滝見通り自治公民館	鬼怒川地区「コミュニティセンター」	つづじヶ丘自治公民館	大原地区集会所	藤原総合文化会館	鬼怒川保育園	藤原中学校	大原市営住宅集会所	自由ヶ丘市営住宅集会所	富士ヶ丘自治公民館
伊の原自治公民館	藤原地区集会所	藤原保育園	小原地区自治公民館	鬼怒川小学校	鬼怒川児童館	藤原保健センター	滝見通り自治公民館	鬼怒川地区「コミュニティセンター」	つづじヶ丘自治公民館	大原地区集会所	藤原総合文化会館	鬼怒川保育園	藤原中学校	大原市営住宅集会所
自由ヶ丘市営住宅集会所	自由ヶ丘市営住宅集会所	富士ヶ丘自治公民館	自由ヶ丘公民館	下原保育園	下原小学校	下原児童館	小佐越地区多目的集会所	城の内自治公民館	柄倉多目的集会所	高徳生活改善センター	高徳保育園	足尾市民センター	足尾中学校	足尾小学校
皇海荘しらかば苑	元足尾高等学校独身寮	赤倉集会所	掛水集会所	速下集会所	唐風呂集会所	原集会所	南橋集会所	餅ヶ瀬集会所	川俣温泉集会所	川俣小中学校	川俣公民館	野門集会所	若間集会所	上栗山集会所
土呂部集会所	黒部集会所	栗山小学校	青柳平集会所	栗山中央保育園	日蔭集会所	栗山中学校	日向公民館	大王集会所	小穴集会所	日向集会所	戸中集会所	小指集会所	西川集会所	湯西川下地区集会所
湯西川保育園	湯西川小中学校	湯西川公民館	湯西川上集会所	体験農業交流センター	体験農業交流センター	体験農業交流センター	湯西川上集会所	湯西川公民館	湯西川小中学校	湯西川保育園	湯西川下地区集会所	西川集会所	小指集会所	戸中集会所
日向集会所	小穴集会所	大王集会所	日向公民館	栗山中学校	日蔭集会所	栗山中央保育園	上栗山集会所	若間集会所	野門集会所	川俣公民館	川俣小中学校	川俣温泉集会所	餅ヶ瀬集会所	南橋集会所

おわりに

今回の特集を通して、「備え」がいかに大切かを皆さんに知って欲しいと思いました。大地震が起きた瞬間は、ほぼ何もできないと考えた方がよいでしょう。そのときの被害を最小限に抑えるために、普段から準備しておくことこそが「備え」です。

60年前の今市地震のときも、栃木県ではしばらく大きな地震がありませんでした。そのため、建物の耐震対策はほとんどされておらず、震源地付近の市街地では甚大な被害を受けたのです。それとは逆に、火災に対する備えは万全でした。取材でお会いした方の話などからも分かりましたが、戦時中の経験もあり、とにかく火の始末をしなければいけないという意識が相当高かったようです。日ごろから「どうすべきか」を考えていたため、迷いなく行動できたのではないかと思います。

「そのとき」は、明日かもしれないかもしれません。「自分の家は大丈夫だから」「すぐに地震が来るわけじゃないから」と考えずに、皆さん一人一人が地震に対する備えをしてください。久しく大地震に見舞われていない今だからこそ、余裕を持って万全な備えをするべきなのではないでしょうか。

今回の特集にあたり、ご協力いただいた多くの方々にお礼申し上げます。

《参考資料》
今市地方震災誌（復刻版）
《写真提供》
宮城県栗原市役所企画部
市政情報課広報広聴係